うきもよう

市内の“あれこれ”をご紹介します

見た！聞いた！地域の魅力再発見！

広報特派員や地域おこし協力隊が市内で起きた出来事を伝えます。

3/28　三角東港で新造船「とばせ」の就航記念イベントが開かれました。船は、三角町の天翔汽船㈲の所有。餅まきも行われ、雨にもかかわらず大勢の人が集まり、船の上から降るたくさんの餅に歓声が響き渡っていました。

てくてく 手しごとさんぽ

ものづくりをする手から生まれる作品は暮らしを心豊かに彩る…そんな命を吹き込む手仕事を紹介します。

歴史を照らす灯り

火を灯せば柔らかく穏やかな光で辺りを包む和ろうそく。ほのかに揺らぐ様は、幽遠な美しさを漂わせる。

昔ながらの技法で和ろうそくを作るのは柏原利武さん。小川町商店街にある国登録有形文化財の町家「新麹屋」でハゼロウやイグサの芯など植物性の原料を使用し、1本1本仕上げる。

「新麹屋は江戸時代から産物を集めて広く交易をしていてね、明治から大正にかけてはハゼの実の集荷やハゼロウの製造販売で、遠くは大阪まで出荷していたんだよ。受け継がれる伝統や町家建築を一日でも長く残しながら、まちのにぎわいにもつなげたいと思っているよ。」

制作体験や町家見学も受け付けている柏原さん。伝統を守り続ける炎は大きく温かだ。

新麹屋（しんこうじや）　しんこじゃとも呼ばれる

小川町小川58
☎43-0445

1 小川町に縁のある人物の絵柄なども　2 ろうの流し込み作業　3 炎が大きく、すすが出にくい

松橋町豊福の昔ばなし

今月は

後世に残そう。地域に伝わるおとぎ話の世界。

化かされたお花どん

権現山の狐、お花どんはよく村娘に化けて豊福神社横の平助どんの魚屋で鰯を失敬していました。これを平助どんは見て見ぬふり。鰯に唐辛子を付けてからかっていました。

ある夜、お花どんが店に現れたので「晩は恐ろしゅうなかっかい」と尋ねると、「怖くなか、犬が一番怖か」と返事。すると、平助どんは「おらぁ、犬よりも銭が一番怖か」と言って体を震わせました。

ある日、お花どんが歩いていると犬がほえ掛かってきました。平助どんの仕業です。

今度は、お花どんが「仕返したい」と集めたありったけの銭を平助どんの店に投げつけます。すると、平助どんは泣きっ面。お花どんは悠々と山へ帰りましたが、平助どんは「鰯の2、3匹どま黙っとかなんね」と喜んでいましたとさ。

イラスト／村上 明日香（不知火美術館 学芸員）

あの人のこの一言

30代後半、体育推進員になったことが、人のお世話をする始まりでした。当時はミニバレーブームで町の企業や行政区に呼び掛け、大会に最高80チームを集めたことも。とても楽しい思い出です。

行政区長のときに熊本地震があり、地域のために頑張らねばと必死でした。皆さんのおかげでよく乗り越えたと思います。若い頃からのたくさんの交流が私の宝。今でも頼まれたら「どがんかせなん」と思います。近所の子どもたちが声を掛けてくれる時が一番うれしい。これからも地域のために頑張りたいです。

南崎 良行（よしゆき）さん
71歳　小川町

市民の何でもランキング

あなたに最も身近な人が選ぶランキングを発表。何かを決めるときの参考にしてみませんか。

今回のテーマ
「旅行に行くならどこ？」

1位	83票	熊本県内
2位	78票	北海道
3位	57票	沖縄

市民433人の回答

PICK UP!
岐阜県白川郷
11月末、雪のちらつく白川郷がすてきでした。忘れられません!!

小崎 ミサ子 さん（松橋町）

次回のテーマは　**回答期限：5/7㈮**
「コロナ禍で始めたことは？」
回答は市公式LINEやメール、お便りで。皆さんの回答お待ちしています。

市公式 LINE